

観測部月報

★

東亜天文協會

★ 流星課だより (94)

八月は例年最も流星の多い月である。涼みがてら星物語をし、想を空の世界に馳せるのもよいが、一步をすゝめてこの観測好機に流星の観測をおすゝめしたいものである。星圖、用紙、鉛筆、時計、これ丈を用意して、流星の飛ぶ毎に記録をとゝめてゆくことは愉快この上もないことである。

幸ひ今年はペルセウス流星群の最盛期たる10日～15日は新月に近い爲、月光の邪魔少く三年振りの観測好機である。會員の奮起を促したい。この時期に出現する流星群中主なものは前記ペルセウス流星群の外

上旬	鯨座 η 流星雨 ($\alpha = 18^\circ$ $\delta = -13^\circ$)
中旬一下旬	白鳥座 κ 流星群 ($\alpha = 290$ $\delta = +53$)
下旬	龍座流星群 ($\alpha = 291$ $\delta = +60$)
八月—九月	星座 γ 流星群 ($\alpha = 346$ $\delta = 0$)

の如きものであるが、ペルセウス流星群の最盛期にはこれに随伴して多くの別の流星群が見られるのを例とする。尚、今年は特にハセル・岡林彗星に伴ふ鯨座の流星雨の初めての出現が待望される!!

前回報告後到着した観測はない。六月下旬にはキンネケ流星群がある筈なので注意してゐるが、梅雨期に入り連日雨天又は曇天の爲観測の機会にめぐまれない。(VI 30)

(小 楨)

★ 太陽課 (1939年6月)

報告者 12名 (前月と同じ)

新報告者 降簇常雄氏 (長野縣北安曇郡常磐村、私立カール・フオンタイン観測所、15 cm 反射。)

(註。以下記事中には締切後の報告者、津留、降簇、すばる會、片山氏の分は資料に入れて居ない。)

太陽課 黑點相對數報告 (1939年6月)

觀測者(觀測地)	坂上	津留	岡村	木邊	正村	大石	降旗	沓掛	すげる會	小石久太郎	阿部	片山
	務(福岡市大名町)	繁雄(熊本市本莊町)	一郎(大阪市明星商業)	成磨(滋賀縣中里村)	一忠(岐阜市溝旗町)	辰次(靜岡縣吉永村)	常雄(長野縣常磐村)	七二(長野縣青木村)	(横濱市)	(東京市神田區)	(東京市池袋)	(東京市立一中)
口徑 mm	40	130	150	75	25	55	150	102	50	58	32	50
倍率	32	45	54	60	48	64	65	75	50	64	45	32
1	136	107	曇	曇	曇	曇	214	雨	雨	137	雨	雨
2	134	94	器	139	82	92	197	166	169	曇	181	118
3	104	曇	械	135	曇	85	220	150	77	111	102	76
4	117	〃	故	105	曇	111	211	167	曇	100	曇	缺
5	125	〃	障	112	〃	曇	192	131	150	88	118	137
6	曇	〃	障	113	〃	〃	138	153	112	65	105	缺
7	〃	雨	曇	113	〃	〃	152	曇	曇	曇	曇	曇
8	〃	雨	曇	90	73	〃	141	〃	雨	曇	曇	〃
9	109	曇	118	缺	70	〃	100	101	101	曇	111	74
10	曇	〃	125	〃	〃	〃	92	104	101	曇	〃	缺
11	〃	〃	缺	〃	雨	〃	104	雨	曇	雨	曇	缺
12	74	〃	106	〃	曇	〃	98	曇	曇	曇	〃	曇
13	曇	〃	曇	〃	〃	〃	88	〃	曇	〃	〃	74
14	81	〃	143	113	〃	〃	122	185	〃	66	〃	74
15	曇	〃	128	114	缺	〃	143	140	缺	87	122	缺
16	67	雨	旅	98	74	〃	168	111	曇	67	112	74
17	69	曇	缺	135	曇	116	138	曇	107	62	缺	88
18	62	〃	152	117	缺	76	110	146	107	64	缺	63
19	86	〃	91	108	60	曇	61	86	125	66	75	48
20	雨	〃	115	缺	曇	曇	72	105	68	37	曇	48
21	〃	雨	71	82	49	37	87	48	48	36	51	50
22	曇	雨	曇	曇	雨	曇	112	曇	缺	雨	曇	61
23	〃	〃	110	80	62	〃	114	〃	〃	〃	〃	75
24	曇	〃	曇	雨	雨	〃	127	缺	〃	54	雨	曇
25	〃	〃	〃	〃	曇	〃	79	曇	〃	雨	曇	〃
26	〃	〃	〃	〃	〃	〃	132	曇	〃	雨	曇	曇
27	〃	曇	193	119	〃	〃	134	122	〃	雨	曇	曇
28	雨	雨	曇	雨	〃	〃	雨	曇	〃	雨	雨	曇
29	124	曇	145	缺	缺	〃	71	曇	〃	曇	曇	〃
30	曇	〃	〃	缺	缺	〃	曇	〃	104	曇	曇	〃
觀測 日數	13	3	12	15	8	7	28	14	12	15	9	12
一日 平均	101	—	125	111	71	83	130	124	107	76	109	79
前月 平均	111	—	123	151	88	104	—	146	—	85	123	—

天候 本年は最初の間、空梅雨とは云はれたが、やはり下旬には本格的に曇つた。従つて大部分の者が15日以下しか観測して居らず、全員で補つても7, 11, 22, 23, 25, 26, 28, 29と、8日間の欠測は一寸珍しい不成績であつた。夏には暑さに打勝つて観測に勵まれ度い。

概況 前月よりは20%内外相對數が減少した。全體としての状況を連斷するわけには行かぬが、一應の山は越した様に思はれる。次月再びハネ上るか否か依然興味を覺へる。(山本博士は今後に大極大が來ると言はれる)

肉眼的黒點	坂上	岡村	木邊	正村	合計
観測日數	13	12	21	8	54
出現日數	6	3	1	2	12
黒點群數	2	2	1	1	6
黒點群累計數	11	3	1	2	17

4名の平均に依れば、観測日に對する出現日數の比は0.22であつて、特に淋しかつた様である。

南北兩半球の比較	木邊	沓掛	阿部
南	51.0	53.0	42.9
北	59.7	70.6	65.7

3名の平均に依れば、可なり北に多くなり、南1.00に對して北1.33、即ち南43%、北57%である。

各群中特異なものとして擧げる程の高緯度のものは、南北兩半球共に無かつたらしい。沓掛氏に依れば夫々25°以下であり、低緯度のものも6月9日東端から現れた群と、下旬(詳細不明)に出現したものが夫々北3°位であつた。

其他 例月通り、沓掛氏より、観測した各群の緯度の報告があつた。

御願ひ この頃少し報告が遅れる様であるから、是非毎月5~6日に到着する様に願ひ度い。特に一人が遅れると、平均が出なくなる。

訂正 天界219號、286頁の表中、阿部正明氏の口径50mmは32mmに訂正。

同 286頁14行目中程0.46''は0.46に訂正。

其他 氣付いた點は遠慮なく申出て欲しい。(木邊)

★ 變光星課 (1939年6月)

1939年5月の報告者と目測數

氏名	沓掛七二	小澤喜一	清水直次	岡林滋樹	木邊成曆	合計5名
觀測星數	5	28	3	11	24	50
目測數	8	147	10	39	181	385

内譯 第二部

沓掛	小澤	木邊	計
5	27	19	35
8	146	161	315

1939年6月の報告者と目測數

氏名	沓掛七二	小澤喜一	岡林滋樹	木邊成曆	合計4名
觀測星數	0	24	13	17	44
目測數	0	110	50	108	268

内譯 第二部

沓掛	小澤	木邊	計
0	23	15	29
0	106	99	205

概報 春から夏への頃には概して最も成績が落ちる。

課報 先月云つた様に、第一部星（SS Cyg 型及嘗て SS-Cyg 型とされて居たもの、及び型式未知の星をば第二部とする）1939年度上半期分の各目測をば次號より發表する。従つて上半期報告洩れの方は至急に追加報告を乞ふ。

新たに倉敷の岡林氏にも幹事を委任した。（課長 木邊，幹事 小澤，岡林）

★遊星面課（1939年5—6月）

火星協同觀測メンバー……6月末迄に申込みのあつたのは下記の20名。

大石辰次（5〃屈，經）静岡縣
青木章（8〃反，經）大阪市
小澤喜一（26〃反，經）名古屋市
明星商業天文部（15〃反，赤）大阪市
津留繁雄（13〃反，經）熊本市
松本義一（16〃反，經）尾道市
岡林滋樹（32〃反，赤）倉敷市
坂上務（10〃反，經）鹿児島市
服部博（21〃反，赤）東京市
淺居正雄（10〃反，赤）横濱市

小石久太郎（6〃屈，經）東京市
矢野彰英（6〃屈，經）門司市
沓掛七二（10〃屈，赤）長野縣
中野繁（10〃反，經）東京及大分
奥村六一郎（18及30〃屈，赤）京都市
降旗常雄（15及30〃反，赤）長野縣
京都一中（9—5〃各種）京都市
東京府立一中（10〃屈，赤）東京市
木邊成曆（32及15〃反，赤經）滋賀縣
伊達英太郎（26〃反，赤）兵庫縣

以上課長，幹事の外は申込順（敬稱略），反＝反射鏡，屈＝屈折鏡，經＝經緯臺，赤＝赤道儀

見取圖受領數……5, 6月共に大して良シーイング及良天候に恵まれなかつたため、見取圖は大して集まらなかつた。岡林氏より5枚、降旗氏よりクレオンスケッチ7枚、坂上氏より色彩スケッチ4枚、中野氏より2枚、及伊達課長のパステルスケッチ6枚、合計24枚。この中降旗氏のものは、火星面の急激變動の見取圖であるが、位置不詳の爲急報は出し得なかつた。尙今年は、色彩スケッチが案外多いが、これは1937年度の前田氏のパステルスケッチの美麗さに刺激されたのと、本年の視直徑の大きいのが原因と思はれる。が、強いて不確實な色彩で畫くより、正しい濃淡を現はした鉛筆スケッチの方が誤りがなくて良い。色彩の方は、全期間中色彩で通して頂き度い。

概況……中央經度が南に下つたため、火星南半球一帯の所謂“海”が美しく、アリンの川(0°)が Disk 中央を通過する。南極冠は、今尚ほ(6月末) Disk の上端に大きく眞白に輝いて、5 糧級にも見えてゐるが逐次縮少するものと豫想される。

——伊達生——

8 月 の 火 星 要 素 表 (日本中央標準時 9^h の値)

日付	光度	視直徑	欠ケ度	中央經度(ω)	中央緯度(ϕ)	火星日付
8月 5日	-2.4 ^m	23.85	0.989	5.76	-6.67	10 ^h 49 ^m
7	2.4	23.70	0.986	347.95	6.53	50
9	2.4	23.52	0.983	330.11	6.40	52
11	2.3	23.31	0.979	321.24	6.31	54
13	2.3	23.08	0.975	294.33	6.23	11月 2
15	2.2	22.83	0.971	276.37	6.19	4
17	2.2	22.56	0.967	258.38	6.17	6
19	2.1	22.27	0.962	240.33	6.18	8
21	2.1	21.97	0.958	222.24	6.21	10
23	2.0	21.63	0.953	204.10	6.27	12
25	2.0	21.33	0.948	185.90	6.35	14
27	1.9	20.99	0.944	167.66	6.47	16
29	1.9	20.66	0.939	149.36	6.60	18
31	1.8	20.31	0.935	131.02	6.76	20
9月 2	1.8	19.97	0.930	112.63	6.94	22
4	1.7	19.64	0.926	94.19	7.14	24

* 中間日の中央經度は、前後の日の中央經度の和を2で除した値である。(伊達)